

三好市立王地小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 互いの意見を認め合い、自らの考えを深められる授業の実践
- 学んだことを進んで表現し、活用できる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
平尾規代美	校 長:喜多 佳英 教 頭:中本 由佳 教務主任:小笠原 誠 研修主任:平尾 規代美 特別支援コーディネーター:三木 和子 上学年担当:伊良原 一輝 下学年担当:友成 由布子 養護教諭:山下 奏

校長
喜多 佳英

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識や技能が身についており、課題にまじめに取り組む児童が多い。読書や読み聞かせに好んで取り組むことができている。タブレット端末を活用したドリル学習には意欲的に取り組んでいる。 ●学習した漢字や語彙を用いて文章を書いたり、書かれている内容を正しく読み取ったりすることに課題がある。学習したことを、活用する力が十分育っていない。	・学習した基礎的・基本的な知識・技能を他の学習場面で活用することができる。 ・語彙を豊かにし、相手を意識した話し方や聞き方が、学年に応じてできる。 ・学習のめあてとまとめをノートに記録し、学びを確かめることができる。	・個に応じた課題等を用意しタイプの違う問題等に触れさせる。(タブレット端末の有効活用) ・内容の理解を進めるため、課題文等に線や丸を書き入れさせる。 ・板書やノート指導を充実させる。 ・言語環境を充実させるために子ども新聞を読み取り等に利用したり、新聞や様々な分野の本に触れられるように、環境を整えたりする。 ・異学年交流や集会活動の際に聞き手を意識して話したり、聞いた感想を書いたり話したりする活動の機会を設ける。	・常に相手を意識した生活をし、頷きや返事での反応を示すことを、まずは意識させるようにする。	・算数科における個に応じた課題の準備及びタブレット端末の利用は、各発達段階に応じてできた。 ・内容理解のための方策について、習慣化は図れたが、その内容や活用に課題がある。児童の語彙力の二極化が浮き彫りになった。 ・教師主導による学習のめあてとまとめについてはできたが、児童自身によるめあてやまとめ等はまだ十分でない。教科により取り組みの格差がある。	・複式の上学年が下学年を教えたり下学年が見習ったりするよさを活かした学習を進める。 ・めあてとまとめが関連付けられていない児童もいるので、意識付けを十分行う必要がある。 ・図書室の利用や新聞活用(NIE)の推進等、児童の興味関心に応じて取り組む。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を発表したり、友達や教師の話や意見を聞いたりすることができる児童が多い。 ●根拠を明らかにして自分の考えを述べたり、書いたりすることが苦手な児童が多い。聞いたり読んだりした中から必要な情報を取捨選択する力が十分育っていない。また、相手の意図を正しく理解しながら「聞く」ことに課題がある。	・自分の考えや意見を、根拠や理由を明確にして話したり書いたりできる。 ・相手の意図を考えながら話を聞き、それに対する自分の意見や考えを述べるができる。 ・様々な形態の文章や資料を読み、必要な情報を読み取ることができる。	・普段の学習や生活において、根拠や理由を述べたり書いたりする場면을積極的に取り入れる。 ・「聞き方名人」「話型」等の話を聞く姿勢や態度、発表の仕方や記述の型を提示する。 ・基礎学習にメモを取る機会や聴写を取り入れる。 ・自分の考えを整理して伝えるために、ICT機器を効果的に取り入れる。 ・新聞や長文等に触れる機会を意図的に設定する。		・理由付けの習慣は身につけている。表現力に課題があり、説得力のある文章で話したり書いたりすることが不十分な児童もいる。 ・少人数グループでの話し合いはできるが、広がりや深まりは不十分。 ・学年により、必要な情報を読み取る力に差がある。	・根拠や理由付けの観点を示すなど、苦手な児童へ支援を行うとともに、課題を達成した児童へ、新たな課題を設けステップアップを図る。 ・様々な場面や教科において、話したり書いたりする機会を設け、更なる表現力の育成を図る。 ・身近な社会科の教科書を活用するなど、様々な形態の文章から必要な情報の取捨選択を図る機会を設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習に取り組む、宿題や与えられた課題にまじめに取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見つけ、解決に向け取り組むことに課題があり、根気強く取り組むことが苦手な児童がいる。	・自分から考え、進んで学習したり活動したりすることができる。 ・自分に応じた学習課題を見つけ、根気強く取り組むことができる。	・「めあて」から「まとめ」までの学習課程をパターン化し、同じ流れで授業が展開されるように意識する。 ・めあてに対する振り返りの時間を確保し、課題を自覚したり次への意欲をもたせたりする。 ・個に応じた自主学習の内容を示して評価するとともに、手本を提示する。 ・家庭学習の手引きを利用し、保護者と共通理解を図る。	・課題解決等に学年に応じて生成 AI の活用を試みる。	・QUアンケートの結果から、学習意欲の低さが見られたが、DXの取り組みにより、意欲の向上が見られるようになった。 ・単元末の振り返りはできたが、毎時間ごとの振り返りはできにくかった。(特に複式での学習では難しかった。) ・学年により、個に応じた自主学習の手本の提示ができた。	・高学年では教師側がしっかりしたガイドラインと目的を持ち、生成 AI の活用を図る。単元ごとのゴールを明確に示し、DXの取り組みを進める。 ・少人数や複式学級の強みを活かした学習の計画的な運用を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

